

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「それがデキたらなんでもするわ!」

テーマ:「高二なのに、中二が抜けない美少女」

キャラクター

35

ストーリー

40

テーマ(設定)

40

文章力

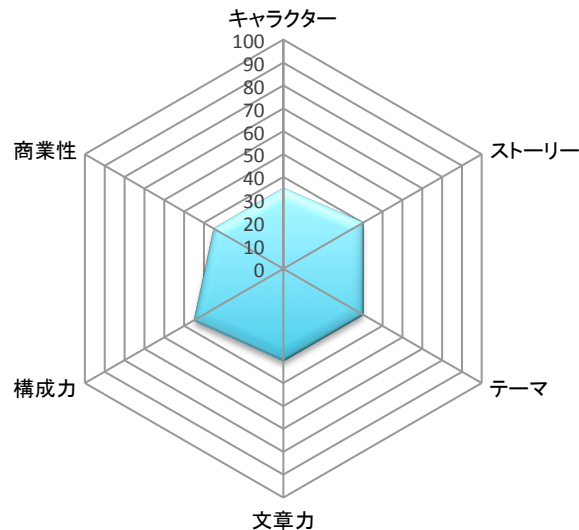
40

構成力

45

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・ギャグがシリアスか、どちらかに雰囲気傾けきった方が良いと思われる。馬鹿なことを真面目にやることによる面白さと、馬鹿なことをシリアス風に重く表現することのつまらなさは別物であり、当作品は後の印象が強い。長編では散々ギャグをやった暁に多少のシリアスはありだが、今回は短編であり、不和輪の過去話が早くに登場し過ぎて明らかに雰囲気を重くしたことが原因。
 ・かめはめ波をなんとか打てないだろうかという発想自体はものすごく面白い。友田のラスボス的なキャラクターも面白くはあったが、意外にすぐにやつつけられるという点と、鉄パイプというシャレにならない武器を使っていた点が作品の雰囲気を損ねているため、例えば「ドラゴンボール完全ブックガイド(電話帳並みのドラゴンボール考察本)で本気で殴って来て、しかも意外にもめちゃくちゃ強い」くらいの馬鹿なことを本気でやっているギャグ感が欲しかった。
 ・雰囲気はさておき、構成そのものは非常に分かり易かった。友田を倒すという明確なクライマックスを終盤適所に配置できている点はうまいと感じる。

合計加点ポイント 0

総得点: 235 / 600

B方式総合得点: 9204 点